

第1章

福岡県や日本の地震の歴史



平成17年3月福岡県西方沖地震直後の玄界島

(画像提供:福岡市消防局)

(((((((平成17年(2005年)福岡県西方沖の地震)))))))))



平成17年3月福岡市内

(画像提供:Wikipedia)



平成17年3月博多埠頭付近

(画像提供:福岡市)

福岡県で震度6弱を観測した

平成17年3月20日10時53分、福岡県西方沖を震源とする地震(マグニチュード7.0)が発生しました。福岡市中央区・東区と前原市(今の糸島市)、佐賀県みやき町で震度6弱のゆれがありました。

福岡県では1人が亡くなり、1,186人がけがをし、9,680棟の家が被害を受けました。

(平成21年6月12日現在、消防庁データより)

福岡県で初めて 震度5以上を観測した

地震の観測を始めた明治37年から、震度5以上のゆれがあったのは初めてでした。

福岡県は地震が少ないと言われていたので、多くの県民がこの地震におどろきました。



平成17年3月玄界島

(画像提供:九州地方整備局)



平成17年3月福岡市志賀島

(画像提供:[Wikipedia])

警察や消防、自衛隊による救助活動で 玄界島の島民が福岡市内に避難できた

震源に近い玄界島では、島の約8割の家が被害を受けましたが、警察や消防、自衛隊の救助活動により、その日のうちに島民全員がヘリコプターなどで福岡市内に避難しました。

不安を軽くする支援が行われた

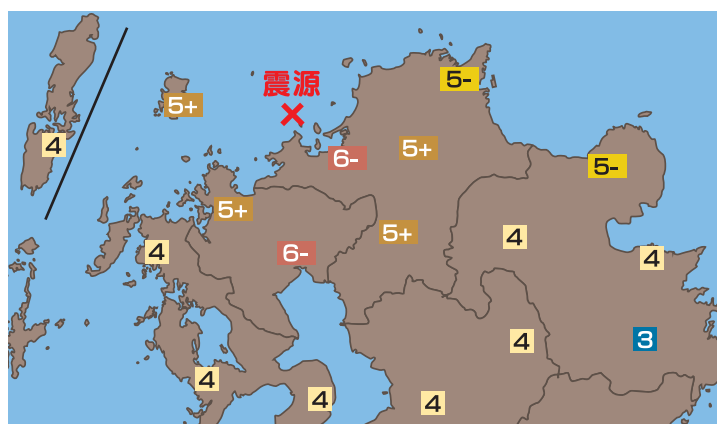
福岡市にあった福岡市九電記念体育館には、玄界島の住民443人が避難しました。

不安を感じる子どもも多くいて、子どもの遊び場が設置されるなど、心のケアも行われました。



平成17年3月福岡市九電記念体育館

(画像提供:福岡市)



平成17年3月20日10時53分の震度

(福岡管区気象台ホームページより作成)

地震発生から約1か月後に 仮設住宅が完成

4月24日と25日に、玄界島の住民のための仮設住宅が玄界島と福岡市のかもめ広場に建てられました。

子どもがいる家庭はかもめ広場の仮設住宅に住み、子どもたちは福岡市内の学校へ通いました。

(((((((平成28年(2016年)熊本地震))))))))



平成28年6月熊本県益城町 (画像提供:九州地方整備局)

避難生活が原因で多くの人が亡くなったうえ 約8,600棟の家が修理不可能になった

熊本県では、建物の下じきになるなどし、50人が亡くなった他、避難生活の疲れから体調をくずすなどして、222人が亡くなりました。

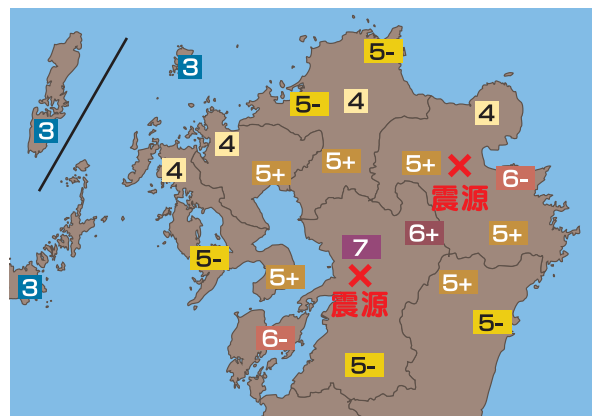
また、2,738人がけがをし、8,657棟の家が修理しても住めないほどの被害を受けました。

(令和2年6月12日現在、熊本県被害情報より)

震度7の地震を2回観測した

平成28年4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震源とする地震(マグニチュード6.5)(前震)が起きました。

さらに4月16日1時25分により大きな地震(マグニチュード7.3)(本震)が起き、どちらも最大震度7を観測しました。



平成28年4月16日1時25分の熊本県熊本地方とほぼ同時に発生した大分県中部の地震の震度 (気象庁ホームページより作成)

(((((((平成30年(2018年)大阪府北部の地震))))))))

鉄道が動かずに、 困った人がたくさんいた

平成30年6月18日7時58分、大阪府北部を震源とするマグニチュード6.1、最大震度6弱の地震が発生しました。

関西地方の主な鉄道が止まり、中には夕方になっても動かない鉄道もありました。



平成30年6月大阪府高槻市

(画像提供:朝日新聞)

たおれたブロック塀で 小学生が亡くなった

小学生がたおれてきたブロック塀の下じきになって亡くなりました。他にも大阪府ではこの地震により5人が亡くなり、384人がけがをし、20棟の家が修理しても住めないほどの被害を受けました。

(平成31年4月1日現在、消防庁データより)



平成30年6月大阪府高槻市

(画像提供:朝日新聞)

か こ わす
過去の学びを忘れずに活かそう

大きな被害をもたらした地震

平成23年(2011年)東日本大震災



平成23年4月水が引いた後の釜石東中学校

(画像提供:釜石東中学校)

巨大な地震と津波が日本をおそった

平成23年3月11日14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0、最大震度7の地震が発生しました。

東北地方を中心に日本の広いはんでゆれ、最大で40.1m(およそビルの13階)の津波も起こり、広いはんいが津波の被害を受けました。

津波にまきこまれて 多くの人々が亡くなった

この震災で1万9,729人が亡くなり、その約9割は津波にまきこまれたことが原因とされています。

また、12万1,996棟の家が修理しても住めないほどの被害を受け、今も、2,559人が行方不明です。

さらに、津波や地震により福島第一原子力発電所から放射性物質が放出し、今でも、その影響で家に帰れない人もいます。

(令和2年3月10日現在、消防庁データより)



平成23年4月釜石市役所付近

(画像提供:財団法人消防科学総合センター
[災害写真データベース])



平成23年4月釜石市内

(画像提供:財団法人消防科学総合センター[災害写真データベース])

日ごろの訓練が発揮されて、 多くの小中学生が助かった

岩手県釜石市では、日ごろから津波が来ることを考えた避難訓練が行われ、小中学生も真剣に取り組んでいました。そのため、地震発生後すぐに避難することができて、市内の小中学生のうち約3,000人が助かりました。

この出来事は「釜石の奇跡」と言われています。



平成23年東日本大震災当日、いっしょに避難する釜石東中学校生徒と鶏住居小学校の児童たち

(画像提供:内閣府)

高い場所へ、さらに高い場所へ避難した

釜石東中学校の生徒は地震発生後すぐに高い場所へ走りました。

それを見た鶏住居小学校の児童や近所の人にも後に続きました。しかし、最初に避難した場所ががけが崩れそうだったため、高学年の子は低学年の子の手を引き、さらに高い場所に走り、命が助かりました。



平成23年隣接する鶏住居小学校との合同避難訓練

(画像提供:釜石東中学校)

自分たちで考えて避難した

釜石小学校の6年生9人組は、放課後、遊んでいる時に地震が起きたので、大人がいるビルに避難をしました。

津波の勢いを見て、さらに高い場所へ避難したほうがよいと大人たちに言いましたが、避難しないので、自分たちでさらに高い場所に避難し、命が助かりました。



釜石市の小学校で教えられていた「避難の3原則」は

- ①「想定にとらわれるな」
- ②「その状況下で最善を尽くせ」
- ③「率先避難者たれ」だよ。

- ①は想定で危険がないと言われていても安心してはダメ
- ②はもう大丈夫と安心せず全力で逃げ続ける
- ③は真っ先に逃げる人になれ、ということです。



じっさい ひがい

実際に被害を受けた小学生に聞いてみました

そのときどうしたの？

平成28年(2016年)熊本地震と益城町立飯野小学校

大きな被害をおよぼした平成28年(2016年)熊本地震ですが、益城町ではとくに大きなゆれが観測されました。

益城町立飯野小学校
6年生
(当時2年生)

村上 美咲さん



益城町立飯野小学校校舎

地震発生時の状況を教えてください。



となりに住むおじさんが、ベランダの窓から私をだきかかえて逃がしてくれました。お母さんが外に出てくるのを待ち、いっしょに町の公民館に避難しました。避難所では、物資の配布や炊き出しの支援がありました。

避難所で2日間ほど過ごし、熊本市内のお母さんの実家で避難生活を始めました。8月に益城町でまたくらし始めるまでは、町外から小学校に通いました。

地震の経験から気をつけたことは何ですか。



反省点は、ちゃんと備えていた非常持ち出し袋を、タンスがたおれたことで持ち出せなかったこと。持ち出しやすいところに置いておくことや、家族全員が、どこにあるかを日頃から分かっておくことが大事だと思います。

また、水が出ないと人は生きていけないし、本当に大切だと学びました。今後の災害に備え、また地震が来たらどう行動するかを、お母さんと決めたことは良かったと思います。

先生に
聞いてみました

そのとき学校は？

地震のあとすぐに体育館が避難者でいっぱいになりました。グランドピアノがさかさまになったことに驚きました。避難者の方々がまだ生活している中で学校がはじまり、学びの場と避難者の生活の場をしっかりと分けて対応しました。その後、運動場が仮設住宅用の敷地として提供されました。



運動場に建てられた仮設住宅